

令和 6 年 5 月 31 日現在

機関番号：24405

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19H03926

研究課題名(和文) 看護学習者の臨床判断を拓くルーブリックと臨床学習環境づくり支援プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of a rubric to facilitate clinical judgment in nursing learners and a supporting program to create a clinical learning environment

研究代表者

細田 泰子 (Hosoda, Yasuko)

大阪公立大学・大学院看護学研究科 ・教授

研究者番号：00259194

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,500,000円

研究成果の概要(和文)：ラサター臨床判断ルーブリック(Lasater Clinical Judgment Rubric: LCJR)日本語版の妥当性を検討し、教育指導者を支援するプログラムを開発することを目的とした。米国のシミュレーション教育の視察をもとに研究方法を検討した。LCJR日本語版を用いて学生の看護実践のシミュレーションを評価し、一定の評者間信頼性と活用可能性が示された。教育指導者を対象とする調査を行い、看護学習者の臨床判断能力や学習支援、経験学習に影響する要因を明らかにした。教育指導者の臨床学習環境づくり支援プログラムを実施し、看護学習者の臨床判断能力やメタ認知促進の支援の向上などの介入効果が確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、米国のシミュレーション教育の視察で得られた知見をもとに、看護学習者の臨床判断の評価基準という観点からLCJR日本語版の信頼性と活用可能性を検討した。これらの成果と教育指導者のニーズ調査に基づき、臨床学習環境づくり支援プログラムを構成した。本プログラムの開発では、LCJR日本語版を教材に用いて、グローバルな連携のなかで臨床学習環境づくりのキーマンとなる教育指導者を支援することを目指し、PDCAサイクルを回しながらプログラムを運営し、その効果を検証した。本研究は、看護学習者の臨床判断を拓く評価と臨床学習環境の創出を支援する教育モデルを提供し、看護職の人材育成において意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：The objectives of this study were to examine the validity of the Japanese version of the Lasater Clinical Judgment Rubric (LCJR) and develop a program to assist educational instructors. The study's research method was based in part on observation of simulation education in the United States. The Japanese version of the LCJR was used to evaluate a simulation of students' nursing practice, and notable levels of inter-rater reliability and potential usability were indicated. A survey was conducted among educational instructors to identify the necessary clinical judgment skills and learning support for nursing learners as well as the factors that influence experiential learning. A supporting program to create a clinical learning environment for educational instructors was implemented. Intervention effects, such as improved support for nursing learners' clinical judgment skills and the promotion of metacognition, were observed.

研究分野：看護教育学

キーワード：臨床学習環境 臨床判断 ルーブリック 看護学習者 支援プログラム 教育指導者 人材育成 国際情報交換(アメリカ合衆国)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

近年の医療をめぐる変化のなかで、臨床現場で必要とされる臨床実践能力と看護基礎教育で修得する看護実践能力との間には乖離があることが指摘されている(厚生労働省, 2014)。また、地域包括ケアシステムの構築により、看護の役割や活動場所の多様化が進むなかで、看護者には、様々な場面で人々の身体状況を観察・判断し、状況に応じた適切な対応ができる看護実践能力が求められている(大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会, 2017)。これらの課題において、看護学生(以下、学生)から新人看護師(以下、新人)へのトランジションにおける臨床判断の能力開発が重要であり、臨床判断モデル(Tanner, 2006)への関心が高まっている。このモデルをもとに Lasater(2007)が開発したラサター臨床判断ルーブリック(Lasater Clinical Judgment Rubric, 以下 LCJR) は、看護学習者である学生や新人の臨床判断を評価することができる。細田ら(2018)は LCJR 日本語版を作成し、翻訳妥当性を検証した。このルーブリックを用いた実証的探究を行い、本邦における看護学習者の臨床判断の評価基準という観点から LCJR 日本語版の妥当性の検討が必要である。

臨床学習環境は、看護学習者の臨床経験の質を決定するための重要な要因であることが明らかにされ、多角的に研究が行われている。近年の学習環境論では、実践共同体のなかで社会的相互作用を通じて理解を深めることが重視されている。Hosoda(2006)は、学習過程の認知的な観点から構成概念を組み立てた Clinical Learning Environment Diagnostic Inventory(CLEDI)を開発し、臨床学習環境を「看護実践における学習者の問題解決能力の発達を促進する経験的な学習の場を構成するもの」と定義している。わが国の看護学教育を取り巻く状況は、米国のヘルスケア環境における人材育成のニーズと共通するものが見られる。Oregon Consortium for Nursing Education では、臨床判断を中核にしたコンピテンシーを基盤としたカリキュラムを開発し、新たな臨床教育モデルを提唱している(Gubrud-Howe & Schoessler, 2008)。

臨床教育の充実はグローバルな課題であり、国際的かつ地域的な視座から取り組む必要がある。臨床教育のあり方を検討し、看護学習者の学びを支援する教育指導者の育成においてグローバルな連携が求められる。教育指導者が組織や個人の活動を通して培ってきたナレッジをもとにその連結を行う臨床学習環境づくりを支援する必要がある。看護学習者の臨床判断を開拓する評価と臨床学習環境の創出を支援する教育モデルを構築することが重要ではないかと考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、LCJR 日本語版の妥当性を検討し、教育指導者のニーズにもとづいた臨床学習環境づくりを支援するプログラムを開発することである。そのため、米国のシミュレーション教育の視察を踏まえ、本邦における看護学習者の臨床判断の評価基準という観点から、LCJR 日本語版の妥当性を検討する。さらに、学生や新人における臨床判断の能力開発や臨床学習環境づくりの支援への教育指導者のニーズを分析する。これらの成果に基づき、グローバルな視座から看護学習者の臨床判断を拓く評価と臨床学習環境づくりに貢献できる教育指導者を支援するプログラムを構成し、プログラムの方針を決定の上、計画(Plan)、実施・運用(Do)、点検・是正(Check)、見直し(Action)のPDCAサイクルを検討する。その検討に基づき、教育指導者を対象に LCJR 日本語版を教材に用いたプログラムを実施し、その効果を評価する。

3. 研究の方法

(1) 米国のシミュレーション教育の視察

米国オレゴン州のOregon Health & Science University(OHSU)とUniversity of Portland(UP)においてシミュレーションセンターを2019年8月に視察し、シミュレーション教育に携わる大学教員や関係者から説明を受け、意見交換を行った。また、LCJR 開発者と共同研究者より先行研究について説明を受け、専門的助言を得た。

(2) LCJR 日本語版の妥当性の検討

便宜的に抽出した看護系大学3校から4年次生7名と、5年以上の看護師経験を有するレーター4名を対象とした。学生とレーターには研究の概要と倫理的配慮を説明し、研究協力の同意を得た。学生は1名あたり10分程度の看護実践のシミュレーションを実施し、実施前に7分程度のオリエンテーション、8分程度のブリーフィングを行い、実施後に20分程度のデブリーフィングを実施した。学生のシミュレーションの観察を2名のレーターが行い、LCJR 日本語版を用いてレイティングを行った。学生は LCJR 日本語版を用いて自己評価を行った。また、学生とレーター別に20分程度の LCJR 日本語版に関するグループインタビューを実施した。基本情報に関する質問紙調査を行った。データ収集期間は2020年10月～12月であった。評者間信頼性は、学生7名のシミュレーションのラウンド別に2名のレーター間のレイティングの一致率およびSideras(2007)の拡大基準による一致率を算出した。学生の自己評価とレーターのレイティングはWilcoxonの符号付き順位検定を用いて比較した。グループインタビューの内容は質的帰納的に分析した。本研究は、所属機関の研究倫理委員会の承認を得て実施した。

(3) 看護学習者の臨床判断能力開発や臨床学習環境づくりの支援への教育指導者のニーズ調査
全国的一般病床数 200 床以上の病院から無作為抽出法により 345 施設を選出し、看護管理責任者に調査への協力を文書で依頼した。教育指導者の条件は、各部署で学生と新人の両方の教育指導経験のある看護職とした。各施設において、5~20 名の教育指導者を募集し、研究協力の承諾を得られた 100 施設の教育指導者 1,137 名を対象に郵送法による無記名自記式質問紙調査を 2020 年 11 月~2021 年 3 月に実施した。調査内容は、看護学習者の臨床判断能力と支援の必要性、臨床判断の能力開発の取り組み、学習支援尺度、職場のソーシャルサポート尺度、被援助志向性尺度、CLEDI、学習環境づくり、職場における能力向上尺度、看護教育用自己決定型学習準備性尺度、経験学習尺度、職場学習風土尺度、目標志向性尺度、個人背景とした。量的データは統計学的処理を行い、質的データは質的記述的に分析した。本研究は、所属機関の研究倫理委員会の承認を得て実施した。

(4) 臨床学習環境づくり支援プログラムの開発

先行研究の結果をもとに、臨床学習環境づくり支援プログラムを構成した。便宜的に抽出した近畿圏の医療機関の看護管理責任者に研究参加募集チラシを対象となる教育指導者に配布を依頼し、WEB 申込みとした。研究参加者の選定条件は、各部署で学生や新人の教育指導を行う看護職、看護師長以上の管理者ではないこと、学生および新人の教育指導の経験があることとした。28 施設に所属する教育指導者 73 名から研究参加の同意を得た。事前調査の結果から背景が均質になるように介入群と対照群に割り付け、両群に LCJR 開発者の講義動画の視聴を含む「臨床判断コンピテンシー開発セミナー」を行い、介入群にはセミナー終了後に「臨床学習環境づくりワークショップ」を実施し、LINE オープンチャットを用いて 2 ヶ月間フォローアップを行った。事前、終了後、終了 2 ヶ月後に自記式質問紙調査を行った。調査内容は、協同作業認識尺度、被援助志向性尺度、基本的コミュニケーションスキル尺度、職場における能力向上尺度、メタ認知促進支援、CLEDI、臨床判断能力に関する支援の必要性、属性(事前)、プログラム評価(終了後、終了 2 ヶ月後)とした。データ収集期間は 2022 年 8 月~2023 年 3 月であった。介入群と対照群の比較には、記述統計、Fisher の正確確率検定、*t* 検定、Mann-Whitney の U 検定を用い、経時的変化は Friedman 検定、多重比較を行った。自由記述は質的記述的に分析した。本研究は、所属機関の研究倫理委員会の承認を得て実施し、臨床試験登録システム UMIN-CTR に登録した。

4. 研究成果

(1) シミュレーション教育に関する視察および検討(赤崎ら, 2020)

OHSU におけるシミュレーション教育

シミュレーション教育の特徴、教育の実際、教員の役割について OHSU 看護学部の教員 3 名から説明を受け、視察した。OHSU では、実習が必要な全ての専門科目にシミュレーション教育を取り入れており、実習に対するシミュレーション教育の割合は 10% を占めている。シミュレーションのシナリオに沿って看護技術を学び、患者とのコミュニケーションを学ぶために模擬患者を使う。シミュレーションの実施は 15 分、デブリーフィングは 45 分行い、1 グループ 8 名で 4 時間かけて行う。シミュレーションセンターの専属教員は 3 名で、学生 8 名に対して看護学部の教員 1 名がシミュレーションセンターへ引率する。シミュレーション教育には、臨床判断モデル(Tanner, 2006)、Concept-Based Learning Activities(Lasater et al., 2009)を活用し、LCJR(Lasater, 2007)を用いて評価している。

UP におけるシミュレーション教育

シミュレーション教育導入の背景、教育の実際、新カリキュラムへの移行について Simulated Health Center の 2 名の教員から説明を受け、視察した。UP では、学生の教育に対する機会の差をなくすためにシミュレーション教育を導入している。学生はオンラインシステムの学生用電子カルテから、患者の情報や事例などを事前に取得する。シナリオをもとに患者ケアを 20 分、ブリーフィングを 20 分行い、1 グループ 6 名の学生を教員 2 名が担当する。シミュレーションが終わると全員でデブリーフィングを 40 分行う。Simulated Health Center の管理者は 3 名で、看護学部の専任者、コンピューターを操作する技術者、模擬患者が関わり、シミュレーション教育が行われている。学生は、臨床判断を行った思考過程の振り返りを行う。新カリキュラムでは専門科目を統合して学び、実習の 49% を High-fidelity シミュレーションに変更する。

LCJR の先行研究に関する検討

LCJR 開発者と共同研究者より、LCJR のシミュレーション教育への活用および LCJR の信頼性と妥当性に関する先行研究について専門的な説明を受け、意見交換を行った。

(2) LCJR 日本語版の信頼性と活用可能性の検討(北島ら, 2024)

LCJR 日本語版のレーター間的一致率と学生-レーター間の比較

学生 7 名のシミュレーションの各ラウンドを観察した 2 名のレーター間の LCJR 日本語版のレイティングの一致率は、90.9%が最も高く、18.2%が最も低かった。Sideras(2007)の拡大基準では、4 つのラウンドで 100%の一致率を示し、81.8%が最も低かった。一定の一致率を認め、LCJR 日本語版の評者間信頼性が確認された。学生の自己評価とレーターのレイティングの比較では、効果的な省察の「評価・自己分析」で有意差が認められ($p < .05$)、学生の方が低かった。

LCJR 日本語版の臨床判断能力の開発への活用可能性

学生のグループインタビューから【活用によるアドバンテージ】【継続的な学びの過程の可視化】【簡明な評価への志向】【レベルに応じた活用】【ポジティブな表現による学習支援】の5カテゴリーが抽出された。レーターのグループインタビューから【評価指標としての有用性】【臨床判断の思考の焦点化】【看護実践の開発支援】【臨床シミュレーションの評価】【妥当な評価への志向】の5カテゴリーが抽出された。LCJR 日本語版は、臨床判断能力をアセスメントするツールとして臨床的思考の観点を共有でき、継続的な対話での活用により発達的なループリックとして活用可能性を有することが示された。

(3) 看護学習者の臨床判断能力開発や臨床学習環境づくりの支援への教育指導者のニーズ分析調査票は、569名(回収率50.0%)から回答を得られた。

教育指導者による看護学習者の臨床判断能力の評価と支援の必要性(細田ら, 2022)

看護学習者の臨床判断能力の評価は、LCJRの「効果的な気づき」「効果的な解釈」「効果的な反応」「効果的な省察」を構成概念とする確認的因子分析を行った結果、適合度指標は許容水準を示し、内的整合性が確認された。臨床判断能力の評価はいずれも有意に新人の方が高かった。学生と新人への支援の必要性は「冷静で自信のある態度」「明確なコミュニケーション」「十分に計画された介入・柔軟性」でZ値が1.96以上を示し、有意差を認めた。LCJRの構成概念をもつ看護学習者の臨床判断能力に関する測定用具の信頼性と妥当性が確認された。教育指導者による臨床判断能力の評価は、新人の方が学生より高いことが示された。「効果的な反応」に属するディメンションで違いを認め、看護学習者の臨床判断能力に応じた支援の必要性が示唆された。

看護学実習における臨床学習環境に影響を与える教育指導者の組織要因の検討

臨床学習環境を目的変数とし、職場におけるソーシャルサポート、職場学習風土、職場における能力向上の下位尺度：業務能力向上、他部門理解向上、他部門調整能力向上、視野拡大、自己理解促進、タフネス向上を説明変数として分析を行った結果、「臨床学習環境」には、「職場学習風土」($r = .264$)、「他部門理解向上」($r = .180$)、「職場におけるソーシャルサポート」($r = .130$)、「視野拡大」($r = .112$)の影響が示され、調整済み R^2 は.214であった。臨床学習環境に影響を与える要因として「職場学習風土」が示され、Kolb(1984)の経験学習理論における学習環境と風土との関連に適合していた。職場における能力向上のうち、「他部門理解向上」と「視野拡大」が影響しており、他部門の立場や相手の意見を理解し、多様な観点から物事を捉えることが、臨床学習環境に関連することが示唆された。また、「職場におけるソーシャルサポート」は同僚、管理職、専門家等からの援助を示しており、臨床学習環境に影響を与えることが明らかになった。

教育指導者における経験学習の関連要因の検討

職位による経験学習の比較を行い、具体的経験($p = .001$)と抽象的概念化($p = .041$)で有意な差を認めた。「内省的観察」では学生および新人への指導経験年数、「能動の実験」では新人への指導経験年数が長い群が短い群より有意に高かった。〈職場学習風土〉と〈職場におけるソーシャルサポート〉が「目標志向性」を介して「経験学習」に影響を与えるという多重指標モデルを構成し共分散構造分析を行った結果、本モデルの適合度指標は許容水準を示し、パス係数は〈職場学習風土〉から「目標志向性」が.17、〈職場におけるソーシャルサポート〉から「目標志向性」が.11であった。「目標志向性」から「経験学習」のパス係数は.77、決定係数は.59であった。職場学習風土と職場におけるソーシャルサポートが目標志向性を介して経験学習に正の影響を与えることが確認された。職位や指導経験年数が経験学習の背景的特徴として示された。

新人と学生に対して学習支援を行う教育指導者の背景的特徴

学習支援の「実践支援」「思考支援」「精神支援」について教育指導者の背景による比較を行い、男性が女性よりも新人および学生への「精神支援」が高く($p < .05$)、役職有が無よりも新人への「実践支援」で高かった($p < .001$)。病床数では、500床以上が400床台よりも新人への「実践支援」($p < .05$)と「精神支援」($p < .05$)で高く、新人への「思考支援」で500床以上が300床台より高く($p < .01$)、400床台が200床台より高かった($p < .001$)。学習支援は、教育指導者の背景によって異なっていることが明らかになった。

教育指導者の被援助志向性と職場におけるソーシャルサポートの関連

被援助志向性の下位尺度「援助の欲求と態度」「援助関係に対する抵抗感の低さ」と職場におけるソーシャルサポートとの相関係数はそれぞれ.24、.27であった。「援助の欲求と態度」「援助関係に対する抵抗感の低さ」の低得点群より高得点群の職場におけるソーシャルサポートの平均ランクが有意に高い($p < .001$)ことが示された。被援助志向性の高い教育指導者は、職場におけるソーシャルサポートが高くなる傾向を示した。

看護学習者の臨床判断の能力開発に向けた教育指導者の取り組み

学生における臨床判断の能力開発への取り組みとして、教育指導者は〈コーチング〉〈アクティブシンキング支援〉〈ロールモデル〉という取り組みを用いて、臨床判断のプロセスを支援していた。さらに学生に対し〈肯定的関心〉をもち、〈学習環境調整〉を行っていることが明らかになった。新人における臨床判断の能力開発への取り組みとして、教育指導者は、〈新人の到達レベルの査定・アセスメント〉〈査定に基づく支援〉〈コーチング〉〈アクティブシンキング支援〉〈ロールモデル〉という取り組みを用いて、臨床判断のプロセスを支援していた。さらに、新人看護師に対して〈肯定的関心〉をもち、〈心理的安全性〉を担保しながら〈学習環境調整〉を行っていることが明らかになった。

(4) 臨床学習環境づくり支援プログラムの評価

事前(T0)、終了後(T1)、終了2ヶ月後(T2) 3時点すべての調査への回答が得られた介入群 32名、対照群 32名を分析対象とした。

臨床学習環境づくり支援プログラムの介入効果

両群の性別、年代、職位、就業施設の病床数、部署、看護職としての経験年数、学生・新人の指導経験年数およびベースライン T0 における各変数に有意差はみられなかった。臨床判断能力に関する支援の必要性では、T1 において新人の「効果的な解釈」と「効果的な反応」で介入群の方が有意に高かった。介入群の経時比較では、新人の「効果的な気づき」「効果的な解釈」「効果的な省察」で有意差がみられ、「効果的な気づき」は T1 で上昇し、「効果的な気づき」と「効果的な解釈」は T2 で低下した。メタ認知促進支援では、学生および新人の「メタ認知的知識」と「メタ認知的活動」において、対照群より介入群の方が T1 ですべて有意に高く、介入群の経時比較では T1 で上昇した。被援助志向性では、群間の有意差はなかったが、経時比較では介入群の「援助の欲求と態度」「援助関係に対する抵抗感の低さ」で有意差がみられ、「援助の欲求と態度」は T1 で低下した。職場における能力向上、協同作業認識、基本的コミュニケーションスキル、臨床学習環境は、群間比較および介入群の経時比較で有意差は認められなかった。教育指導者を対象とする本プログラムにより、新人の臨床判断能力に関する支援の必要性、学生・新人のメタ認知促進支援を向上し、被援助志向性を低下する効果があることが示唆された。

臨床学習環境づくり支援プログラムの運用評価

プログラムの運用に関する評価では、「指導や教育に関する新しい気づき・発見があった」「参加者間で情報共有・情報交換ができた」「主体的に学ぶことができた」「指導や教育に関するモチベーションがあがった」が T1、T2 で有意差を認めた。介入群は今後の教育活動への活用について、T1 で 96.9%、T2 で 84.4%が「十分活用できる」「ある程度活用できる」と回答した。介入群の自由記述では「臨床学習環境の調整」「臨床判断に関する知見の導入」「思考発話を意識した関わり」などの意見があった。介入群からは本プログラムの高い評価が得られ、今後の教育活動への活用が肯定的であったことから、プログラムの有用性が示された。

引用文献

- 赤崎芙美, 細田泰子, 根岸まゆみ, 片山由加里, 土肥美子, 北島洋子, 米田真央(2020). 米国におけるシミュレーション教育に関する視察報告. 大阪府立大学看護学雑誌, 26(1), 63-69.
- 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会(2017). 看護学教育モデル・コア・カリキュラム～「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学修目標～. 文部科学省. https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/1397885.htm, (参照 2024-5-26).
- Gubrud, P., & Schoessler, M.(2009). OCNE Clinical Education Model. In N. Ard, & T. M. Theres (Eds.), *Clinical Nursing Education: Current Reflections* (PP.39-57). New York: National League for Nursing.
- Hosoda, Y.(2006). Development and testing of Clinical Learning Environment Diagnostic Inventory for baccalaureate nursing students. *Journal of Advanced Nursing*, 56(5), 480-490.
- 細田泰子, 根岸まゆみ, キャシー・ラサター(2018). 臨床判断を拓く評価に向けて ラサター臨床判断ルーブリック日本語版の作成. 看護教育, 59(1), 40-47.
- 細田泰子, 勝山愛, 金山悠, 北島洋子, 根岸まゆみ, 片山由加里, 土肥美子(2022). 教育指導者による看護学習者の臨床判断能力の評価と支援の必要性 測定用具の信頼性・妥当性の検討. 日本医学看護学教育学会誌, 31(3), 21-30.
- 北島洋子, 細田泰子, 根岸まゆみ, 片山由加里, 赤崎芙美, 土肥美子, Lasater, K., Nielsen, A.(2024). ラサター臨床判断ルーブリック日本語版(LCJR-J)の信頼性と活用可能性の検討. 日本看護科学会誌, 44(掲載決定).
- Kolb, D. A.(1984). *Experiential Learning: Experience as The Source of Learning and Development*. Upper Saddle River, NJ: Prentice Hall.
- Lasater, K.(2007). Clinical judgment development: Using simulation to create an assessment rubric. *Journal of Nursing Education*, 46(11), 496-503.
- Lasater, K., & Nielsen, A.(2009). The influence of concept-based learning activities on students' clinical judgment development. *Journal of Nursing Education*, 48(8), 441-446.
- 厚生労働省(2014). 新人看護職員研修ガイドライン【改訂版】. 厚生労働省. <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000049578.html>, (参照 2024-5-26).
- Sideras, S.(2007). An Examination of the Construct Validity of a Clinical Judgment Evaluation Tool in the Setting of High-fidelity Simulation (Doctoral Dissertation, Oregon Health & Science University, Portland, 2007).
- Tanner, C. A.(2006). Thinking like a nurse: A research-based model of clinical judgment in nursing. *Journal of Nursing Education*, 45(6), 204-211.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 4件／うち国際共著 1件／うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 細田泰子, 勝山愛, 金山悠, 北島洋子, 根岸まゆみ, 片山由加里, 土肥美子	4. 巻 31(3)
2. 論文標題 教育指導者による看護学習者の臨床判断能力の評価と支援の必要性 測定用具の信頼性・妥当性の検討	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本医学看護学教育学会誌	6. 最初と最後の頁 21-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細田泰子	4. 巻 47
2. 論文標題 臨床判断能力を拓く学習環境	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 看護展望	6. 最初と最後の頁 10-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片山由加里, 細田泰子, 根岸まゆみ, 土肥美子, 北島洋子, 赤崎英美, 米田真央	4. 巻 37
2. 論文標題 地域に根付く米国ホスピスのフィールドワーク：ボランティアとの協働からみた本邦の看護教育についての考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 同志社女子大学総合文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 64-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15020/00001878	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 赤崎英美, 細田泰子, 根岸まゆみ, 片山由加里, 土肥美子, 北島洋子, 米田真央	4. 巻 26(1)
2. 論文標題 米国におけるシミュレーション教育に関する視察報告	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大阪府立大学看護学雑誌	6. 最初と最後の頁 63-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24729/00016805	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 細田 泰子	4. 巻 45(4)
2. 論文標題 臨床判断能力を培う、コンセプトを基盤にした学習活動	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 看護展望	6. 最初と最後の頁 29-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北島洋子, 細田 泰子, 根岸まゆみ, 片山由加里, 赤崎 美美, 土肥美子, Kathie Lasater, Ann Nielsen	4. 巻 44
2. 論文標題 ラサター臨床判断ルーブリック日本語版(LCJR-J)の信頼性と活用可能性の検討	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本看護科学会誌	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

[学会発表] 計15件(うち招待講演 1件/うち国際学会 5件)

1. 発表者名 Yasuko Hosoda, Mayumi Negishi, Fumi Akasaki, Yukari Katayama, Yoko Kitajima, Yoshiko Doi, Kathie Lasater, Ann Nielsen
2. 発表標題 Assessing the reliability of the Japanese version of the Lasater Clinical Judgment Rubric
3. 学会等名 The 33rd International Nursing Research Congress 2022 (STTI) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yoko Kitajima, Mayumi Negishi, Yukari Katayama, Yasuko Hosoda, Fumi Akasaki, Yoshiko Doi, Kathie Lasater, Ann Nielsen
2. 発表標題 A qualitative analysis of the Lasater Clinical Judgment Rubric: Japanese version by nursing students
3. 学会等名 The 33rd International Nursing Research Congress 2022 (STTI) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 勝山愛, 細田泰子, 根岸まゆみ, 金山悠, 北島洋子, 土肥美子, 片山由加里
2. 発表標題 教育指導者における経験学習の関連要因と背景的特徴の検討
3. 学会等名 日本看護学教育学会第32回学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 片山由加里, 細田泰子, 勝山愛, 土肥美子, 金山悠, 北島洋子, 根岸まゆみ
2. 発表標題 教育指導者の新人看護師と看護学生への学習支援に関連する背景的特徴
3. 学会等名 日本看護学教育学会第32回学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 細田泰子, 勝山愛, 根岸まゆみ, 土肥美子, 片山由加里, 北島洋子, 金山悠
2. 発表標題 看護学実習における臨床学習環境に影響を与える教育指導者の組織要因の検討
3. 学会等名 第42回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 金山悠, 細田泰子, 勝山愛, 北島洋子, 根岸まゆみ, 片山由加里, 土肥美子
2. 発表標題 看護学生における臨床判断の能力開発に向けた教育指導者の取り組み
3. 学会等名 第42回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yoko Kitajima, Yasuko Hosoda, Ai Katsuyama, Yoshiko Doi, Yukari Katayama, Mayumi Negishi, Yu Kanayama
2. 発表標題 Factors associated with improving the workplace competence of educational instructors who support nursing learners
3. 学会等名 26th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Mayumi Negishi, Yukari Katayama, Yoko Kitajima, Yasuko Hosoda, Fumi Akasaki, Yoshiko Doi, Kathie Lasater, Ann Nielsen
2. 発表標題 Exploring the usefulness of the Lasater Clinical Judgment Rubric - Japanese Version
3. 学会等名 第41回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 片山由加里, 北島洋子, 根岸まゆみ, 細田泰子, 赤崎英美, 土肥美子, Kathie Lasater, Ann Nielsen
2. 発表標題 ラサター臨床判断ルーブリック日本語版のレーターを対象とした活用に関する質的分析
3. 学会等名 第32回日本医学看護学教育学会学術学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 土肥美子, 細田泰子, 勝山愛, 片山由加里, 根岸まゆみ, 北島洋子, 金山悠
2. 発表標題 教育指導者の被援助志向性と職場におけるソーシャルサポートの関連
3. 学会等名 第32回日本医学看護学教育学会学術学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 細田泰子, 勝山愛, 金山悠, 北島洋子, 根岸まゆみ, 片山由加里, 土肥美子
2. 発表標題 教育指導者が指導した看護学習者の臨床判断能力とその支援の必要性の検討
3. 学会等名 第32回日本医学看護学教育学会学術学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 細田泰子, 水引智央, 根岸まゆみ, 勝山愛, 北島洋子, 土肥美子, 片山由加里, 松本赳史
2. 発表標題 教育指導者に対する臨床学習環境づくり支援プログラムの開発
3. 学会等名 第43回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 細田泰子
2. 発表標題 シンポジウム「看護臨床判断のパースペクティブ 教育から研究へ」：臨床判断を拓くルーブリックの活用と学習環境デザイン
3. 学会等名 第43回日本看護科学学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Chihiro Mizuhiki, Yasuko Hosoda, Mayumi Negishi, Ai Katsuyama, Yukari Katayama, Yoshiko Doi, Yoko Kitajima, Takeshi Matsumoto
2. 発表標題 Evaluation of a clinical learning environment design support program that cultivate clinical judgment competency
3. 学会等名 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Yu Kanayama, Yasuko Hosoda, Ai Katsuyama, Yoshiko Doi, Yoko Kitajima, Mayumi Negishi, Yukari Katayama
2. 発表標題 Developing clinical judgment skills in novice nurses: A survey among nursing educators
3. 学会等名 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) (国際学会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 松木光子, 宮地緑, 中田智子, 田中恵子, 細田泰子, 牧野裕子, 河上智香, 神戸美輪子, 角野加恵子, 西田好江, 川北敬美	4. 発行年 2021年
2. 出版社 金芳堂	5. 総ページ数 230
3. 書名 看護学臨地実習ハンドブックー基本的考え方とすすめ方ー第6版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>受賞 日本看護学教育学会第32回学術集会 最優秀演題賞（発展部門）、優秀演題賞（育成部門） 第42回日本看護科学学会学術集会 優秀演題抄録賞</p> <p>WEBページ 研究概要：看護学習者の臨床判断を拓くループリックと臨床学習環境づくり支援プログラムの開発 https://www.omu.ac.jp/nurs/hosoday/19h03926/</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	片山 由加里 (Katayama Yukari) (10290222)	同志社女子大学・看護学部・准教授 (34311)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	土肥 美子 (Doi Yoshiko) (10632747)	大阪公立大学・大学院看護学研究科 ・准教授 (24405)	
研究分担者	根岸 まゆみ (Negishi Mayumi) (40816352)	静岡県立大学・看護学部・講師 (23803)	
研究分担者	北島 洋子 (Kitajima Yoko) (90582875)	宝塚大学・看護学部・教授 (34520)	
研究分担者	勝山 愛 (Katsuyama Ai) (10933327)	大阪公立大学・大学院看護学研究科 ・講師 (24405)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	赤崎 芙美 (Akasaki Fumi)		
研究協力者	金山 悠 (Kanayama Yu)		
研究協力者	松本 趙史 (Matsumoto Takeshi)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	水引 智央 (Mizuhiki Chihiro)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	Oregon Health & Science University			